

■鳥居竜蔵 人類学者、民族学者。独学でスタート、空前絶後の現地踏査で自らの学を確立、最後は北京の客員教授に。

とりいりゅうぞう

初の日刊新聞1870＝ 徳島の船場で、代々阿波藩の煙草司をつとめた煙草大問屋の次男に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

裕福な商家に育つも、大の学校嫌いで、

大久保暗殺・1878＝ 8歳：小学校を1年通っただけで中途退学し、

琉球処分・・・1879＝ 9歳：

明治14年政変1881＝11歳：

後は、英語、国文学など若干の科目は直接個人的な指導を受けたが、「和漢三才図会」「骨董集」などの和書を読破するなど、「ほとんどは独学自習して、自然人類学や考古学に興味を持つようになり、

帝国大学始・1886＝16歳： 東京帝国大学の大学院生だった坪井正五郎を幹事に新しく人類学会が組織されたと聞いて入会。

初の対等条約1888＝18歳： 坪井正五郎が出張の途次、鳥居家に宿泊し、案内したことから、

帝国憲法発布1889＝19歳：

帝国議会始・1890＝20歳： 本格的に人類学を学ぼうと上京。

大本教・・・1892＝22歳： 留学していた坪井が帰国し、人類学教室に招かれる。

郡司千島探検1893＝23歳： 東京帝国大学理科大学人類学教室標本整理係を命ぜられる。提唱により第1回土俗会開催。

日清戦争始・1894＝24歳： この年笹森儀助の「南嶋探験」が発刊されると、早速、笹森に面会を求め、

日清戦争終・1895＝25歳： 東京人類学会の委嘱により遼東半島及び満州へ最初の考古学的調査旅行に出る。

白馬会・・・1896＝26歳： 東京帝国大学から台湾に人類学調査に派遣され、

八幡製鉄始・1897＝27歳： 第2回台湾調査では、東京地学協会の縁で、会長の榎本武揚子爵に台湾総督乃木將軍を紹介してもらう。

子規句歌革新1898＝28歳： 理科大学助手、

以来、台湾、雲南、貴州、四川、満州(中国東北)、内蒙古、朝鮮半島、北千島、樺太、東部シベリアなどで長期間、または回を重ねて人類学調査に従事。

ピアノ国産化・1900＝30歳： この年まで4回、台湾を調査旅行。

教科書疑獄・1902＝32歳： *東大から西南中国に派遣され、翌年にかけて探検型フィールドワークを敢行し、先駆的な旅行記「人類学上より見たる西南支那」を発表するとともに、歴史家の相貌も現し、

日露戦争終・1905＝35歳： 理科大学講師。満州調査で、調査方法を転換し、文化人類学へと踏み出す。

満鉄発足・・・1906＝36歳： 蒙古喀喇沁王府から蒙古調査に派遣され、満州と蒙古がライフワークとなる。

韓国反日暴動1907＝37歳： 翌年にかけて再度の派遣。妻が蒙古王家家庭教師の後任に指名され、妻と生れたばかりの子ども伴う。

以後、音楽学校出の妻は単に台所を支えただけでなく、自ら民謡などの採譜につとめるなどして補完。

伊藤博文暗殺1909＝39歳： 満州総督府から派遣され、満州調査。

韓国併合・・・1910＝40歳： 朝鮮総督府からの朝鮮半島調査を開始し、

明治天皇没・1912＝42歳：

大正政変・・・1913＝43歳： 坪井が出張先ペテルブルグで客死。*論文「人類学と人種学を分離すべし」で自らの学の確立を表明。

21ヶ条要求・1915＝45歳：

民本主義・・・1916＝46歳： この年まで、6回調査を行った。

本格政党内閣1918＝48歳： 「有史以前の日本」、

ハルビン条約・1919＝49歳： 東大からの派遣で、東部シベリアを調査。

大暴落・・・1920＝50歳： パリ学士院からバルム＝アカデミー賞を贈られ、パリの万国連盟人類学院会員・日本代表委員に推され、

原敬首相暗殺1921＝51歳： 再び、東部シベリアと北樺太を調査。「満蒙の有史以前」で文学博士を受け、

水平社結成・1922＝52歳： 東京帝大理学部助教授となる。

護憲三派圧勝1924＝54歳： 「諏訪史」第1巻。*東大を辞職し、鳥居人類学研究所を創設。以後、上智大、国学院大を歴任。

以後、研究所を足場に自主的な調査を行う。

円本時代始・1926＝56歳： 妻を伴って山東省を調査。

金融恐慌・・・1927＝57歳： 満州を調査。この年、妻が「土俗学上より見たる蒙古」を著す。

以後、ライフワークとして満州・蒙古の調査を続け、

満州事変・・・1931＝61歳：

蒙古入りを阻もうとする北京駐在の日本武官の手を振り払うなど、生涯を自由人として振る舞い、

国際連盟脱退1933＝63歳：

芥川直木賞始1935＝65歳： この年まで、ほぼ毎年、調査旅行に出た。

日中戦争始・1937＝67歳： 外務省からの委託で、ブラジル・ペルー・ボリビアを調査。

健保+総動員 1938＝68歳： 日中戦争最中に華北の調査にでると、その縁で、

第二次大戦始1939＝69歳： 北京の燕京大客員教授に迎えられ、

大政翼賛会・1940＝70歳： 翌年にかけて、中国各地を調査。

日米開戦・・・1941＝71歳： この年まで、約半世紀余の間、殆ど休むことなく、人類学のフィールド調査を行い続けた。

・・・・・・1942＝72歳：

当時日本ではこれらの地方の研究は未発達で、その成果は内外の人類学界に貢献した。またその間、国内全域にわたり遺跡遺物を調べ、考古学の地域研究に寄与するとともに、東アジア各地の民族文化に関する該博な学識をもって日本文化を分析した。

敗戦・・・・・・1945＝75歳：

独立回復・・・1951＝81歳： 燕京大客員教授を退任して帰国し、

TV放送始・・・1953＝83歳： 没した。

産経「日本人の足跡1」、刀水書房「20世紀の歴史家たち1」、田畑久夫「民族学者鳥居龍蔵」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、